

4. (2) 川部会の活動進捗報告 (全体会議資料抜粋)

《令和2年度の当初目標》

10年間の取り組みの成果をとりまとめるとともに、これまでのテーマについて、引き続き情報共有と意見交換を行う。

<テーマ>

上下流問題
(生き物の棲みやすい
川づくり)

地先の問題

<解決手法>

①本川モデル

- ・土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換
- ・置き土実験に関する情報共有
- ・川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)

②支川モデル

- ・水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)
- ・川沿いウォークの実施(町中・山中の川沿いを歩くことも含める)

③地域連携モデル

- ・矢作川流域圏年表の完成
- ・ごみ問題に関する情報共有

4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動実績

川部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第53回WG（19名）	7月28日（火） 14:00-16:40	豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
第54回WG（18名）	10月13日（火） 13:15-16:30	豊田市梅坪台交流館 2階 多目的ホール
第55回WG（22名）	11月17日（火） 13:00-16:00	西尾市役所 会議棟 第2会議室
第12回川部会 まとめの会（16名）	12月22日（火） 14:00～16:00	豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室

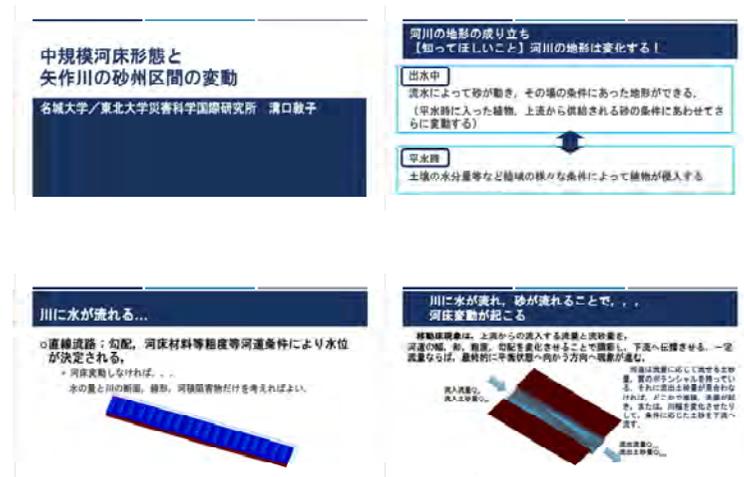
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

①本川モデル | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

<土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換>

- 名城大学溝口教授より、土砂の流れによる川の河床形態の仕組みと、矢作川下流域に形成される砂州の状況について講義していただき、現地視察を通して、矢作川本川の砂河床の状況を確認した。



河川の成り立ちについての講義 2020年11月17日

<事業概要等に関する情報共有>

- 国土交通省豊橋河川事務所より、令和2年度の事業概要や、鵜の首地区水位低下対策事業の進捗、事業効果、置土の予定について、情報共有を行った。

<川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)>

- バスツアーについて、阿摺ダム、明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川の内容を計画した。

4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

②支川モデル | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

<水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)>

- 矢作川水系の支川のひとつである籠川の現地視察を行い、籠川と矢作川の水生生物の生息や生育特性、籠川の整備状況と環境の変化、砂州形成の仕組みなどについて説明を聞き、砂州や植生の状況を確認した。

<川沿いウォークの実施(町中・山中の川沿いを歩くことも含める)>

- 籠川で川沿いウォークを実施し、支川の自然環境や河川特性、多自然川づくりにおける落差工や魚道の工夫、市民による愛護活動の状況などについて、話し合った。



籠川沿いウォーキングのようす

4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

③地域連携モデル | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

<矢作川流域圏年表の完成>

- 10年誌編集委員の近藤氏より、矢作川流域圏年表を掲載する10年誌の作成状況について、情報共有を行った。

<ごみ問題に関する情報共有>

- 市民部会の光岡座長より、市民部会が計画しているマイクロプラスチックとネオニコチノイドに関する勉強会について、情報共有を行った。



川部会WGの話し合いのようす

4. (2) 川部会の令和3年度の活動目標（案）

令和3年度の活動目標（案）

- これまでのテーマについて、複数のモデルにまたがる課題も出てきていることから、テーマの設定を見直すことも視野に入れ、引き続き、情報共有および話し合いを行う。

テーマ別の活動方針（例）

①本川モデル

- 土砂や川の形、生物、人間の視点からの川の望ましい像に関する意見交換
- 置き土実験に関する情報共有
- 川部会が抱える課題の社会への発信（バスツアーなどにおいて）

②支川モデル

- 水系の河川情報の集積（生物・防災・管理者の境界）
- 川沿いウォークの実施（町中・山中の川沿いを歩くことも含める）

③地域連携モデル

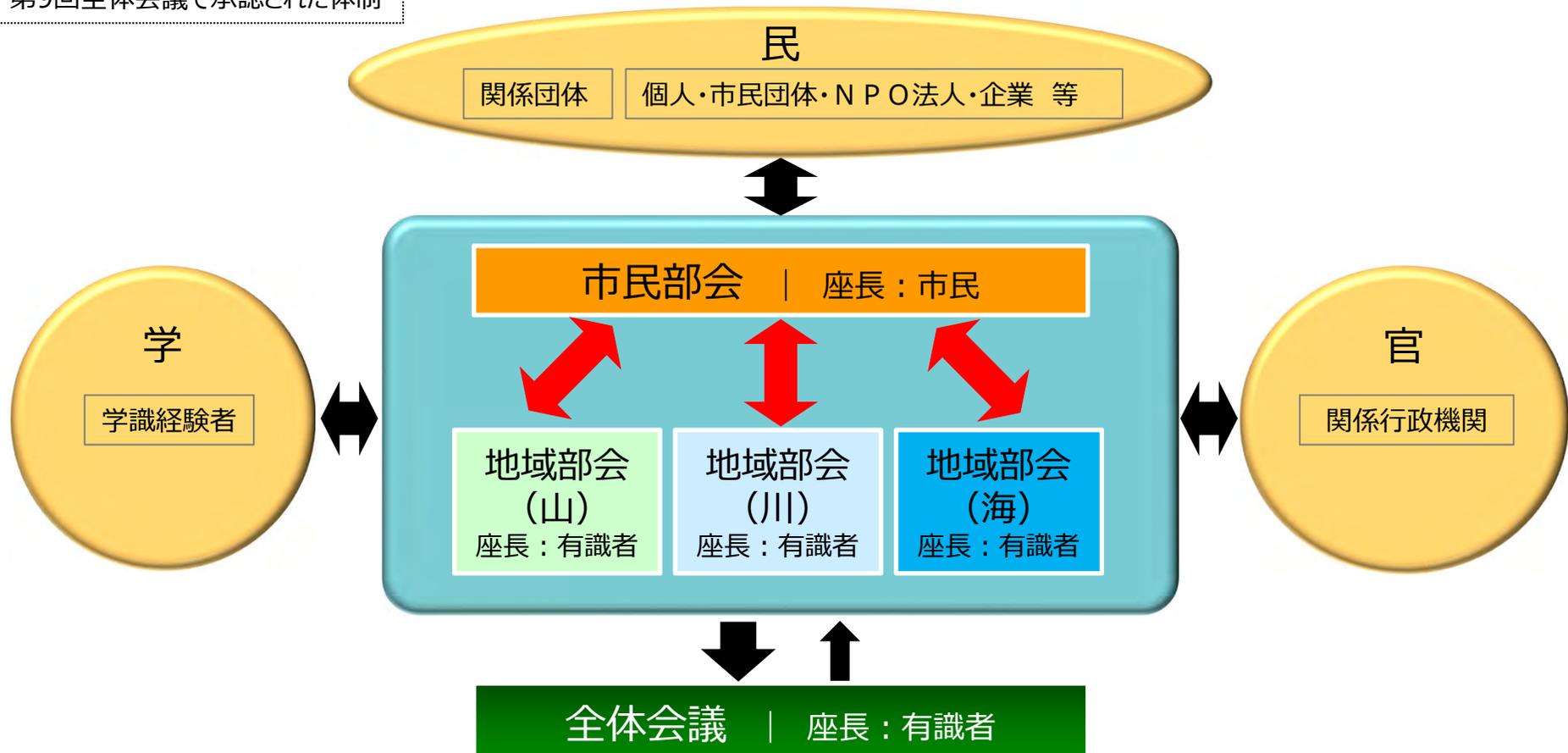
- ごみ問題に関する情報共有
- 外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携

5. (1) 今後の体制等について

■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。

第9回全体会議で承認された体制



5. (1) 今後の体制等について

■ スケジュール案

- 市民部会は、WG2回、まとめの会1回を実施するとともに、勉強会(●)を2回、バスツアー(●)を1回行う。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、各2～3回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を12月頃に実施する。
- 全体会議を2月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントを2回実施する。
①矢作川感謝祭 (夏) ②三河湾大感謝祭 (秋)

体制・イベント			月										
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
市民部会	WG	勉強会		←	—	●	—	●	—	→			
		まとめの会									●		
地域部会	WG	フィールドワーク		←	—	—	—	—	—	→			
		まとめの会									●		
全体会議		話し合いの会											★
流域連携に関するイベント							①		②				